2　果樹類の植物成長調整剤

(1)-1 ぶどう：CX－10（萌芽促進、発芽率向上）

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう シアナミドを含む農薬の総使用回数2回以内	休眠打破による新梢の萌芽促進及び発芽率の向上	10～20倍　150～200L／10a 結果母枝に散布又は塗布／1回	収穫後発芽前
		15～20倍　150～200L／10a 結果母枝に散布又は塗布／2回	

＜CX-10を使用する場合の注意＞

・大粒種は10～15倍、デラウェアは15～20倍を目安に希釈する。
・収穫後発芽前に10～20倍希釈液を原則として1回散布すること。ただし、散布適期に降雨が多い地域では、散布する希釈倍数は15～20倍とし、24時間以内に降雨があった場合等には、効果を安定させるため15～20倍希釈液を再処理すること。
・施設栽培において催芽期以降の処理は、薬害を生じる恐れがあるので使用しないこと。
・登熟不良のほ場では、芽が枯死する場合があるので、10倍での使用は避けること。

(1)-2 ぶどう：フラスター液剤（新梢伸長抑制）

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう(ピオーネ) メピコートクロリドを含む農薬の総使用回数２回以内	新梢伸長抑制	500～800 倍　100～150L/10a　散布／2 回	新梢展開葉 7～11 枚時(開花始期まで)
ぶどう(デラウエア(露地栽培)) メピコートクロリドを含む農薬の総使用回数１回		1500～2000 倍　200～250L/10a　散布／1 回	
ぶどう(デラウエア(施設栽培))、ぶどう(デラウエア(露地栽培)) メピコートクロリドを含む農薬の総使用回数１回		800～1000 倍　100～150L/10a　散布／1 回	
ぶどう(シャインマスカット)、ぶどう(ピオーネ) メピコートクロリドを含む農薬の総使用回数２回以内		1000 倍　300L/10a　散布／2 回	満開 10～20 日後　但し、収穫 60 日前まで
ぶどう(シャインマスカット) メピコートクロリドを含む農薬の総使用回数２回以内		1000～2000 倍　100～150L/10a　散布／2 回	新梢展開葉 7～11 枚時(開花始期まで)
ぶどう(シャインマスカット)、ぶどう(ナガノパープル)、ぶどう(ピオーネ) メピコートクロリドを含む農薬の総使用回数２回以内		500 倍　150L/10a　散布／2 回	満開 10～20 日後　但し、収穫 60 日前まで

メピコートクロリドを含む農薬の総使用回数2回以内、ただしデラウエアは1回

＜フラスター液剤を使用する場合の注意＞

・２倍体欧州系品種では、樹勢が弱い場合に所定の高濃度で使用すると過度に新梢伸長が抑制されたり、過着粒になりやすいので注意する。一方、樹勢が強い場合には所定の低濃度で使用すると新梢伸長抑制効果が劣る場合があるので注意する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

－植物成長調整剤－

(1)-3 ぶどう：ジベレリン粉末（無種子化、果粒肥大促進、果房伸長促進、着粒安定）

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう （デラウェア） [無核栽培] ジベレリンを含む農薬の総使用回数2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	無種子化、 果粒肥大促進	第1回目：100ppm　花房浸漬 第2回目：75～100ppm　果房浸漬又は果房散布 果房散布の場合は30～100L／10a 2回（降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内）	満開予定日約14日前（第1回目） 及び満開約10日後（第2回目）
		第1回目：100ppm 花房浸漬（フルメット液剤1～5ppm液に加用） 第2回目：75～100ppm　果房浸漬又は果房散布 果房散布の場合は30～100L／10a 2回（降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内）	満開予定日18～14日前（第1回目） 及び満開約10日後（第2回目）
ぶどう （2倍体欧州系品種） [無核栽培] ジベレリンを含む農薬の総使用回数3回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内	無種子化、 果粒肥大促進	第1回目：25ppm　花房浸漬 第2回目：25ppm　果房浸漬 2回（降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内）	満開時～満開3日後（第1回目） 及び満開10～15日後（第2回目）
		25ppm 花房浸漬（フルメット液剤10ppm液に加用） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開3～5日後 （落花期）
	果房伸長促進	3～5ppm　30～100L／10a　花房散布／1回	展葉3～5枚時
ぶどう （キングデラ、ハニーシードレス、ＢＫシードレス、ポンタを除く3倍体品種） ジベレリンを含む農薬の総使用回数3回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内	着粒安定、 果粒肥大促進	第1回目：25～50ppm　花房浸漬 第2回目：25～50ppm　果房浸漬 2回（降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内）	満開時～満開3日後（第1回目） 及び満開10～15日後（第2回目）
	果房伸長促進	3～5ppm　30～100L／10a　花房散布／1回	展葉3～5枚時

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ジベレリン粉末（続き）

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう （ポンタ）※ ジベレリンを含む農薬の総使用回数3回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内	着粒安定、 果粒肥大促進	第1回目：25～50ppm　花房浸漬 第2回目：25～50ppm　果房浸漬 2回（降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内）	満開時～満開3日後（第1回目） 及び満開10～15日後（第2回目）
		100ppm　花房又は果房浸漬 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開3～6日後
	果房伸長促進	3～5ppm　30～100L／10a　花房散布／1回	展葉3～5枚時
ぶどう （サニールージュを除く巨峰系4倍体品種） ［無核栽培］ ジベレリンを含む農薬の総使用回数3回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内	無種子化、 果粒肥大促進	第1回目：12.5～25ppm　花房浸漬 第2回目：25ppm　果房浸漬 2回（降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内）	満開時～満開3日後（第1回目） 及び満開10～15日後（第2回目）
		25ppm 花房浸漬（フルメット液剤10ppm液に加用） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開3～5日後 （落花期）
	無種子化	12.5～25ppm　花房浸漬 （満開10～15日後にフルメット液剤による果粒肥大促進処理を行うこと） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開時～満開3日後
	果房伸長促進	3～5ppm　30～100L／10a　花房散布／1回	展葉3～5枚時

※愛称は虹の雫

＜ジベレリンを使用する場合の注意＞

・ぶどうに関する作物名中の品種による区分は、ジベレリンに対するぶどうの反応性の違いを考慮した区分なので、ぶどうの品種がどの区分（品種群）に該当するか、確認してから使用する。

品種名（「Ⅳ　作物分類表」より引用）

○巨峰系４倍体品種ぶどう

巨峰、ピオーネ、安芸クイーン、藤稔、サニールージュ、翠峰、黒王、ゴルビー、紫玉、シナノスマイル、高妻、多摩ゆたか、白峰、紅義、伊豆錦、出雲クイーン、イチキマール、ウエハラ５４０号、オーロラブラック、オリンピア、さがみ、ジャスミン、ダークリッジ、高墨、ハイベリー、ハニーブラック、ハニービーナス、ブラックオーパス、ブラックオリンピア、紅伊豆、紅瑞宝、紅富士、紅やまびこ、竜宝、レッドクイーン、ロードベリー、黄玉、天秀等

○２倍体欧州系品種ぶどう

瀬戸ジャイアンツ、ロザキ、マリオ、ロザリオビアンコ、ルビーオクヤマ、マスカットオブアレキサンドリア、シャインマスカット、ＣＧ８８４３５、アルフォンスラバレー、イタリア、甲

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

斐乙女、甲斐路、カッタクルガン、カベルネソービニオン、グリーンサマー、クルガンローズ、ケニギンデルワインガルデン、甲州、甲州三尺、ゴールド、ゴールドフィンガー、ザバルカンスキー、シトロンネル、シャルドネ、赤嶺、セシリア、乍那、チェリー、京早晶、ニューナイ、ネオマート、ネオマスカット、ネヘレスコール、バラディ、ビーナス、ピッテロビアンコ、ブラックスワン、ブラック三尺、フレームトーケー、貝甲干、紅アレキ、紅三尺、紅環、ベニピッテロ、馬乃子、マスカット甲府、マスカットデュークアモーレ、マスカットハンブルグ、マスカットビオレ、マニキュアフィンガー、モルゲンシェーン、ヤトミローザ、ユニコーン、リザマート、リッシバーバ、竜眼、涼玉、ルーベルマスカット、ルビー大久保、レッドグローブ、レッドネヘレスコール、ローヤル、ロザリオロッソ、アリサ、黄華、紫苑、ヒロハンブルグ等

○３倍体品種ぶどう

キングデラ、サマーブラック、甲斐美嶺、ナガノパープル、安芸シードレス、美嶺等

府補足）

大阪府育成品種「ポンタ」（愛称：虹の雫）は３倍体品種ぶどうに含まれる。

・降雨や、異常乾燥（フェーン現象等による異常乾燥）の心配のない日を選んで処理する。
・処理後の天候急変（降雨、異常乾燥）で本剤の吸収が不十分になるおそれがある場合には、ジベレリンを含む農薬の総使用回数の範囲内で再処理を行うことができる。
・本剤は樹勢の弱い樹や登熟の悪い枝等に対しては、効果が不十分なので使用をさける。樹勢がやや強めの方が安定した効果が得られるが、極端に樹勢が強い場合はかえって効果が出にくいので樹勢の管理には十分気をつける。
・本剤の使用により、着粒が安定するとともに果粒の肥大が促進されるので、着粒過多（過密着）による裂果発生のおそれがある。また、果梗が硬化し脱粒しやすくなるので、裂果や脱粒を未然に防ぐため、開花前の整房や着粒後の摘粒等の栽培管理を適切に行う。
・使用時期や使用濃度を誤ると、花振い、着粒過多（過密着）、有核果混入等のおそれがあるので、使用時期、使用濃度は厳守する。
・無種子化を目的とした着粒前の処理の際は、特に丁寧に処理することを心がけ、薬液が花蕾全体に十分いきわたるよう注意する。
・果粒肥大促進を目的とした着粒後の処理の際は、薬液が付きすぎないように、処理後ぶどうの枝やぶどう棚の針金を軽く振って余分な薬液を落とす。
・本剤とストレプトマイシン剤を併用することで無核果率の向上を図ることができる。使用に当たっては、ストレプトマイシン剤の使用上の注意事項を厳守する。
・本剤をぶどう（デラウェア）［無核栽培］で使用する場合、満開予定日約14日前よりも早く処理するときは、花振いすることがあるのでフルメット液剤（ホルクロルフェニュロン剤）を加用する。また、フルメット液剤を加用して処理する際は、フルメット液剤の使用上の注意事項を厳守する。
・本剤をぶどうの果房伸長促進の目的で使用する場合は、必ず花房だけを目がけて花房全体が十分濡れる程度に部分散布する。この時期に誤って大量の薬液が枝や葉にかかると、その翌年に発芽不良などの新梢の生育障害が起こるおそれがあるので、動力噴霧機やスピードスプレーヤなどによる全面散布は行わない。
・ぶどう（ポンタ）へ満開３～６日後に着粒安定、果粒肥大促進の目的で使用する場合、開花期に低温が続く場合は花ぶるいのため着粒が安定しない場合があるので注意する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

(1)-4 ぶどう：フルメット液剤（ホルクロルフェニュロン）
（ジベレリン処理適期幅拡大、果粒肥大促進、着粒安定、無種子化、花穂発育促進）

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう（デラウェア）［無核栽培］（露地栽培） ホルクロルフェニュロンを含む農薬の総使用回数2回以内 但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	ジベレリン処理適期幅拡大	1～5ppm　花房浸漬（ジベレリンに加用） （ジベレリン第2回目処理は慣行） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開予定日18～14日前
	着粒安定	2～5ppm　花房浸漬 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	開花始め～満開時
		5ppm　花房散布 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	
	果粒肥大促進	3～5ppm　果房浸漬（ジベレリンに加用） （ジベレリン第1回目処理は慣行） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開約10日後
		3～10ppm　果房散布（ジベレリンに加用） （ジベレリン第1回目処理は慣行） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	
ぶどう（デラウェア）［無核栽培］（施設栽培） ホルクロルフェニュロンを含む農薬の総使用回数2回以内 但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	ジベレリン処理適期幅拡大	1～5ppm　花房浸漬（ジベレリンに加用） （ジベレリン第2回目処理は慣行） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開予定日18～14日前
	着粒安定	5～10ppm　花房浸漬 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	開花始め～満開時
	果粒肥大促進	3～5ppm　果房浸漬（ジベレリンに加用） （ジベレリン第1回目処理は慣行） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開約10日後
		3～10ppm　果房散布（ジベレリンに加用） （ジベレリン第1回目処理は慣行） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

フルメット液剤(続き)

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう(2倍体欧州系品種) [無核栽培] ホルクロルフェニュロンを含む農薬の総使用回数3回以内 但し、降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内	着粒安定	2～5ppm　花房浸漬(開花始め～満開前に使用する場合) (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	開花始め～満開前又は満開時～満開3日後
		2～5ppm　花房浸漬(満開時～満開3日後に使用する場合ジベレリンに加用) (ジベレリン第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	果粒肥大促進	2～10ppm　果房浸漬(ジベレリンに加用) (ジベレリン第1回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開10～15日後
		5～10ppm　果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	無種子化果粒肥大促進	10ppm　花房浸漬(ジベレリンに加用) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開3～5日後(落花期)
	花穂発育促進	1～2ppm　花房散布 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	展葉6～8枚時
ぶどう (3倍体品種) [無核栽培] ホルクロルフェニュロンを含む農薬の総使用回数2回以内 但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	着粒安定	2～5ppm　花房浸漬(開花始め～満開前に使用する場合) (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	開花始め～満開前又は満開時～満開3日後
		2～5ppm　花房浸漬(満開時～満開3日後に使用する場合ジベレリンに加用) (ジベレリン第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	果粒肥大促進	5～10ppm　果房浸漬(ジベレリンに加用) (ジベレリン第1回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開10～15日後

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

フルメット液剤(続き)

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう(サニールージュを除く巨峰系4倍体品種)[無核栽培] ホルクロルフェニュロンを含む農薬の総使用回数3回以内 但し､降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内	無種子化、果粒肥大促進	10ppm　花房浸漬(ジベレリンに加用) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開3～5日後(落花期)
	着粒安定	2～5ppm　花房浸漬(開花始め～満開前に使用する場合) (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	開花始め～満開前又は満開時～満開3日後
		2～5ppm　花房浸漬(満開時～満開3日後に使用する場合ジベレリンに加用) (ジベレリン第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	果粒肥大促進	5～10ppm　果房浸漬(ジベレリンに加用するか、又はフルメット液剤を単用で処理) (満開時～満開3日後のジベレリンによる無種子化処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開10～15日後
	花穂発育促進	1～2ppm　花房散布 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	展葉6～8枚時
ぶどう(巨峰系4倍体品種)[有核栽培] ホルクロルフェニュロンを含む農薬の総使用回数1回 但し､降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	果粒肥大促進	5～10ppm　果房浸漬 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開15～20日後

＜フルメット液剤を使用する場合の注意＞

・ぶどうに関する作物名中の品種による区分は、フルメット液剤の有効成分であるホルクロルフェニュロンに対するぶどうの反応性の違いを考慮した区分なので、ぶどうの品種がどの区分（品種群）に該当するか、確認してから使用する。※各品種の区分についてはジベレリンの項と同じ。
・本剤の使用により、着粒過多による裂果、着色遅延、果粉の付着不良、糖度低下や果梗の硬化による脱粒等品質に悪い影響を及ぼすおそれがあるので、使用に当たっては開花前の整房、着粒後の摘粒及び結果量調整等の栽培管理を適切に行う。
・使用時期や使用濃度を誤ると、有核果混入や果面障害（果点のコルク化）、着色遅延及び果色変調等のおそれがあるので、使用時期、使用濃度は厳守する。
・降雨や、異常乾燥（フェーン現象等による異常乾燥）の心配の無い日を選んで処理する。
・処理後の天候急変（降雨、異常乾燥）で本剤の吸収が不十分になるおそれがある場合には、ホルクロルフェニュロンを含む農薬の総使用回数の範囲内で再処理を行うことができる。
・樹勢が健全か、強い方が安定した効果が得られるので、樹勢は強めに維持する。樹勢の弱い樹では

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

効果が不十分なので使用をさける。
・ジベレリン以外の薬剤との混用はさける。なお、ジベレリンと混用する場合は、ジベレリンの使用上の注意事項に留意し、ジベレリン溶液に、本剤が所定濃度になるように添加し、よくかくはんしてから使用する。
・調製した薬液は効果の低下のおそれがあるので、調製当日に使い切る。

(1)-5 ぶどう：アグレプト液剤（無種子化）

作物名	使用目的	使用方法	使用回数	使用時期
ぶどう ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数1回	無種子化	1000倍(200ppm) 散布(200～700L／10a) 花房散布(30～100L／10a) 花房浸漬	1回	満開予定日14日前～開花始期
		花房浸漬 （第1回目ジベレリン処理と併用）		満開予定日14日前～満開期

＜アグレプト液剤を使用する場合の注意＞
・石灰硫黄合剤、ボルドー液及び石灰、タルク、ベントナイトなどの吸着性増量剤を含有する薬剤との混用は避ける。
〇ジベレリン液に添加使用する場合
・第1回目ジベレリン処理時にジベレリン液に添加して花房浸漬処理し、第2回目ジベレリン処理（単用）を必ず行う。
・展着剤は加用しない。
・薬剤は使用の都度調整し、なるべく調整当日に使用する。また調整液は、なるべく日陰におく。
・必ず処理適期に使用し、所定濃度を厳守する。

(1)-6 ぶどう：アブサップ液剤（着色促進）

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
ぶどう （ポンタ※、神紅）	着色促進	100～200倍 1果房当たり2～10ml 果房散布／1回	着色始期～着色開始２週間後	アブシシン酸を含む農薬の総使用回数は１回
ぶどう （巨峰、ピオーネを除く巨峰系4倍体品種）				
ぶどう （巨峰、ピオーネ）			果粒軟化始期～着色開始２週間後	

※愛称は「虹の雫」

＜アブサップ液剤を使用する場合の注意＞
・薬液は使用の都度調製し、なるべく調製当日に使用する。また、調製液はなるべく日陰に置く。
・降雨の心配の無い日を選んで処理する。
・薬液が果粒に付き過ぎると果面の汚れや果粉が溶脱するおそれがあるので、使用濃度、使用液量を厳守する。また、果房周辺の葉に飛散しない様に必ず果房だけを目がけて散布する。
・噴霧は、なるべく薬液の粒が小さい霧状・ミスト状が望ましい。
（例：果房とノズルをやや離して散布すると、大きな粒の薬液は果房に付く前に落ちて、

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

比較的小さな粒の薬液が果房に付く）

・本剤処理により、成熟に伴う食味向上に対して着色が先行するため、収穫前に糖度等の果実品質を確認する。

(2)-1 かんきつ：フィガロン乳剤（夏秋梢伸長抑制）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん	1000～2000倍 葉先からしたたりはじめる程度 （250～500L／10a） 立木全面散布／1～2回	新梢萌芽期 （収穫14日前まで）	エチクロゼートを含む農薬の総使用回数は４回以内（1000倍希釈散布は2回以内）
かんきつ（温州みかん、きんかんを除く）		新梢萌芽期 （収穫60日前まで）	

＜フィガロン乳剤を使用する場合の注意＞

・温州みかんの夏秋梢伸長抑制に使用する場合は、他の使用目的（摘果、浮皮軽減、熟期促進）に使用しない。

・連年施用すると樹勢が低下する場合があるので注意する。

(2)-2 かんきつ：フィガロン乳剤（全摘果、間引摘果）

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん	全摘果	1000倍 葉先からしたたりはじめる程度 （250～500L／10a） 摘果したい部分に散布／1回	生理落果最盛期 （満開10～20日後）	エチクロゼートを含む農薬の総使用回数は4回以内 （1000倍希釈散布は2回以内）
		1000～2000倍 葉先からしたたりはじめる程度 （250～500L／10a） エスレル10の2000～8000倍希釈液と混合して摘果したい部分に散布／1回		
	間引摘果	1000～2000倍 葉先からしたたりはじめる程度 （250～500L／10a） 立木全面散布／1回	満開20～50日後で生理落果のある時	

＜フィガロン乳剤を使用する場合の注意＞

〇全摘果に使用する場合は以下の事項に注意する。

・幼木等で全摘果したい場合は樹全体に、部分的に全摘果したい場合は、摘果したい部分だけに1000倍液を均一に散布する。

・摘果効果を高めるために気温が高くなることが予想される日に散布することが望ましい。

・エスレル10の濃度が高い（2000倍）と旧葉の落葉を助長することがあるので注意する。

〇間引き摘果に使用する場合は以下の事項に注意する。

・本剤による摘果効果は一般的に果径が約20㎜以下の時は大きく、また25㎜以上の時は小さいので、着果量の多い場合は早めに散布する。

・摘果効果は樹勢や気象条件等によっても変動するため、本剤だけで十分な摘果効果を期待すると摘果過多になることがあるので、本剤による摘果はやや摘果効果不足程度をねらう方が安全である。したがって通常（平均的着果量の時）2000倍で使用する。

・散布時あるいは散布後2～3日間高温（30℃以上）が続くと摘果過多になることがあるので、気象条

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

件を見定めてから散布する。
・着果量は樹によって異なるので散布は葉果比の低い樹に対して重点的に行う。また直花果の多い場合は摘果過多になるおそれがあるので、散布時期をやや遅めにするなど十分注意する。
・本剤による落果が終了した後に仕上げ摘果を行い、品質の均一化、樹勢の維持に努める。
・散布は樹冠全体に均一にかかるように行う。特に樹冠頂部は薬液がかかりにくく、手直し摘果もしにくいので、むらのないようにていねいに散布する。

(2)-3 かんきつ：フィガロン乳剤（浮皮軽減）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん	2000～3000倍 葉先からしたたりはじめる程度（250～500L／10a） 立木全面散布／2回	1回目：蛍尻期 2回目：蛍尻期の2週間後（収穫7日前まで）	エチクロゼートを含む農薬の総使用回数は4回以内（1000倍希釈散布は2回以内）

(2)-4 かんきつ：ターム水溶剤（摘果）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	1-ﾅﾌﾀﾚﾝ酢酸を含む農薬の総使用回数
温州みかん	500～1000倍　250～500L／10a 立木全面散布又は枝別散布／1回	一次生理落果発生期（満開10～20日後）	4 回以内（一次生理落果発生期は 1 回以内、二次生理落果発生後は 3 回以内）
	1000～1500倍　250～500L／10a 立木全面散布又は枝別散布／1回	二次生理落果発生期（満開20～40日後）	
かんきつ（温州みかんを除く）	1000～1500倍　250～500L／10a 立木全面散布又は枝別散布／1回	生理落果発生期（満開10～50日後）	3 回以内

＜ターム水溶剤を使用する場合の注意＞

〇温州みかんに使用する場合は次の事項に注意する。
・摘果を目的に使用する場合は、一次生理落果発生期（満開10～20日後）では1回以内とし、2回使用しない。
・二次生理落果発生期（満開20～40日後）で使用する場合、一次生理落果の状況を確認した後で使用する。
・樹全体を摘果したい場合は立木全面に、部分的に摘果したい場合は摘果したい部分のみに散布する。
・全摘果など効果を高めたい場合は、気温が高くなることが予想される日にたっぷりと、間引き摘果など一定量の果実を残したい場合は、薬液が葉先から滴り落ちない程度に少なめに散布する。
・間引き摘果の目的で使用する場合、次のような条件では過摘果のおそれがあるので使用をさける。また、本剤散布前後4～5日のマシン油乳剤の近接散布をさける。
　・30℃以上の高温下
　・散布後に高温が2～3日続くと予想される場合
　・樹勢の弱い樹
　・病害虫の著しい被害を受けた樹
・本剤による摘果が終了した後に仕上げ摘果を行い、品質の均一化や樹勢の維持に努める。

〇かんきつ（温州みかんを除く）に使用する場合は次の事項に注意する。
下記に記載した使用目的と作物の組み合わせ以外に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

おいて事前に薬効・薬害の有無を十分確認してから使用する。
「摘果：天草、伊予柑、清見、せとか、はるみ、湘南ゴールド、ぽんかん、不知火、たまみ」

(2)-5 かんきつ：ジベレリン粉末（浮皮軽減）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん	1～5ppm　100～400L／10a 果実散布（ジャスモメート液剤（プロヒドロジャスモン） 1000～2000倍液に加用）／1回	収穫予定日の3ヶ月前 （収穫45日前まで）	ジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内

＜ジベレリンを使用する場合の注意＞

・本剤処理により、着色が遅延することがあるため、貯蔵期間によって使用濃度を調整する。
・使用濃度の目安
　・貯蔵用または樹上完熟の温州みかんでは、概ね3.3～5ppm
　・貯蔵しないあるいは貯蔵期間が短い温州みかんでは、概ね1～3.3ppm
・本剤処理により、薬斑が残ることがある。

(2)-6 かんきつ：ジベレリン粉末（落果防止）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん、不知火、はるみ	25～50ppm　50～100L／10a 散布／1回	開花始め ～満開10日後	ジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内
温州みかん	10ppm　50～100L／10a 散布（ジャスモメート液剤（プロヒドロジャスモン） 1000倍～2000倍液に加用）／1回		
きんかん	25～50ppm　50～250L／10a 散布／1回		ジベレリンを含む農薬の総使用回数は1回
ワシントンネーブル	500ppm　30～40L／10a 幼果に散布／1回	満開10～20日後の幼果期	
かんきつ(不知火、ぽんかん、かぼす、はるみ、ワシントンネーブル、日向夏、すだち、平兵衛酢、長門ユズキチ（無核）、温州みかん、きんかん、愛媛果試第２８号、愛媛果試第４８号、清見、カラを除く）	25～50ppm　50～100L／10a 散布／1回	開花始め ～満開10日後	
日向夏 （無種子化、落果防止）	300～500ppm　30～40L／10a 果実散布／1回	満開7～10日後	

＜ジベレリンを使用する場合の注意＞

・本剤処理により生理落果が軽減され着果が安定するが、品種等により本剤に対する感受性が異なるので、初めての品種等に使用する場合は事前に薬効薬害を確認した上で使用する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・果面の粗滑や果皮の厚さ等果実品質への影響が懸念される場合があるので、使用時期、濃度は守る。

(2)-7 かんきつ：ジベレリン粉末（花芽抑制による樹勢の維持）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん、不知火、はるみ	25～50ppm　50～250L／10a 立木全面散布又は枝別散布／1回	収穫直後 ～収穫約1ヵ月後	ジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内
温州みかん	10ppm　50～250L／10a 立木全面散布又は枝別散布 （ジャスモメート液剤（プロヒドロジャスモン）1000～2000倍液に加用）／1回		
	2.5ppm　200～700L／10a 立木全面散布又は枝別散布 （マシン油乳剤　60～80倍液または展着剤に加用）／1回	11～1月 但し収穫後	
不知火、はるみ	2.5ppm　200～700L／10a 立木全面散布又は枝別散布 （マシン油乳剤　60～80倍液に加用）／1回	収穫後～3月	
かんきつ（不知火、ぽんかん、かぼす、はるみ、ワシントンネーブル、日向夏、すだち、平兵衛酢、長門ユズキチ（無核）、温州みかん、きんかん、愛媛果試第２８号、愛媛果試第４８号、清見、カラを除く）	25～50ppm　50～250L／10a 立木全面散布又は枝別散布／1回	収穫直後 ～収穫約1ヵ月後	ジベレリンを含む農薬の総使用回数は1回
	2.5ppm　200～700L／10a 立木全面散布又は枝別散布 （マシン油乳剤　60～80倍液に加用）／1回	収穫後～3月	

＜ジベレリンを使用する場合の注意＞

・期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しない。
・低温が続いた年（極端な低温の年）または裏年の場合は、遅い時期の低濃度処理を心がける。
・散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布する。
・マシン油乳剤はジベレリンに加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤の注意書きを確認のうえ、使用する。

(3) いちじく：エスレル10（熟期促進）

使用方法と使用回数	使用時期
500～1000倍 果面散布（果面がぬれる程度）／1果当り1回	成熟予定15日前 （果実生長第2期終期）

＜エスレル10を使用する場合の注意＞

・使用時期を誤らないよう注意する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。